

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年8月14日
【四半期会計期間】	第23期第2四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
【会社名】	株式会社セルシード
【英訳名】	CellSeed Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 橋本 せつ子
【本店の所在の場所】	東京都江東区青海二丁目5番10号テレコムセンタービル
【電話番号】	03-6380-7490
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 畑中 格
【最寄りの連絡場所】	東京都江東区青海二丁目5番10号テレコムセンタービル
【電話番号】	03-6380-7490
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 畑中 格
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第22期 第2四半期累計期間	第23期 第2四半期累計期間	第22期
会計期間		自 2022年1月1日 至 2022年6月30日	自 2023年1月1日 至 2023年6月30日	自 2022年1月1日 至 2022年12月31日
売上高	(千円)	74,612	66,966	126,427
経常損失( )	(千円)	352,779	366,680	754,274
四半期(当期)純損失( )	(千円)	357,125	363,958	759,680
持分法を適用した場合の投資損失 ( )	(千円)	-	-	-
資本金	(千円)	1,326,051	1,895,088	1,467,377
発行済株式総数	(株)	22,159,419	28,385,419	24,422,619
純資産額	(千円)	1,299,566	1,682,404	1,178,338
総資産額	(千円)	1,695,426	2,045,042	1,543,920
1株当たり四半期(当期)純損失 ( )	(円)	18.54	13.29	36.31
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	-	-	-
1株当たり配当額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	75.1	81.1	74.8
営業活動によるキャッシュ・フ ロー	(千円)	269,391	348,386	718,006
投資活動によるキャッシュ・フ ロー	(千円)	14,931	17,689	61,728
財務活動によるキャッシュ・フ ロー	(千円)	605,682	847,817	881,814
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(千円)	1,168,032	1,589,331	1,072,210

回次		第22期 第2四半期会計期間	第23期 第2四半期会計期間
会計期間		自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日
1株当たり四半期純損失( )	(円)	7.75	6.49

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資損失については、当社が有している関連会社は、利益基準等からみて重要性の乏しい関連会社であるため、記載を省略しております。なお、第23期第2四半期累計期間において、当該株式の一部を譲渡したことにより、第23期第2四半期会計期間末時点において当社が保有する関連会社株式はありません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下の通りです。

当社は、関連会社(日生細胞生技股份有限公司(英語名:Up Cell Biomedical Co.))の当社保有株式の一部を譲渡したことにより、日生細胞生技股份有限公司(英語名:Up Cell Biomedical Co.)は当社の関連会社ではなくなりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期会計期間の末日において当社が判断したものであります。

(1) 当第2四半期累計期間末において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」からの重要な変更はありません。

(2) 当社が将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況その他の提出会社の経営に重要な影響を及ぼす事象

当社は、当社新株予約権の行使による資金調達の実施により、前事業年度末の手元資金（現金及び預金）残高は1,072,210千円となり、財務基盤については安定的に推移しております。一方で事業面におきましては細胞シート再生医療事業の重要課題である細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の道程を示すまでには至っておりません。以上のことから、当社は当第2四半期会計期間末において、引き続き継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在していると判断しております。

当社は当該状況の解消を図るべく、引き続き以下の施策に取り組んでおります。

#### 当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の実現と事業提携の推進による収益機会の獲得

当社は、今後、食道再生上皮シート及び同種軟骨細胞シートの開発を推進し、当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化を実現すること、また事業提携先の開拓を通じて、更なる収益機会を獲得していくことで当該状況の解消を図って参ります。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行したことにより、社会経済活動の正常化が進み、景気は緩やかな回復基調となりました。

一方でロシア・ウクライナ情勢の長期化や原材料価格の高騰による物価上昇に加え、世界的な金融引締めが継続するなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社はこのような環境の下、コスト削減による財務体質の改善と安定的な財務基盤の確立を図りつつ、再生医療支援事業及び細胞シート再生医療事業における活動を推進いたしました。

この結果、当第2四半期累計期間における売上高は66,966千円（前年同四半期比7,646千円の減少）、営業損失は359,215千円（前年同四半期比10,370千円の増加）、経常損失は366,680千円（前年同四半期比13,900千円の増加）、四半期純損失は363,958千円（前年同四半期比6,832千円の増加）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### 再生医療支援事業(細胞培養器材、製造受託など)

細胞培養器材事業では、器材製品の拡販に向けた既存代理店との更なる協業強化、2023年3月開催の第22回再生医療学会総会、7月開催の日本がん免疫学会への付設展示会に当社ブースを出展するなど、器材製品の積極的な販売促進活動に取り組みました。今後も、顧客ニーズ、市場動向に合致した新製品の開発のための研究開発に注力し、新規の顧客を獲得できるよう努めてまいります。

当社細胞培養センターを活かした再生医療を支援する再生医療受託事業については、引き続き共同研究先である東海大学より先進医療にかかる自己軟骨細胞シートの製造を受託しております。第2四半期累計期間は、1症例のみの売上計上でしたが、第3四半期以降、複数症例の売上計上を見込んでおります。

また、当社は、今後、池上総合病院より自己軟骨細胞シート移植に用いる細胞シートの製造受託を予定しており、自費診療領域に用いる細胞シートの製造を受託することで受託事業の拡大を図ってまいります。

以上のような活動の結果、売上高は62,018千円（前年同四半期比8,169千円の減少）、営業損失は27,663千円（前年同四半期比12,881千円の減少）となりました。

#### 細胞シート再生医療事業

細胞シート再生医療事業では、食道再生上皮シート及び同種軟骨細胞シートの細胞シート2品目の再生医療等製品の自社開発を中心とした研究開発を推進しております。

食道再生上皮シートは医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）の下、2020年10月に治験届を提出後、PMDAから受けた細胞シートの製造方法に関する指摘への検討に対しても取り組みつつ、追加治験を実施しております。製造販売承認申請の時期を2025年に予定しております。

同種軟骨細胞シートは、「同種軟骨細胞シート（CLS2901C）の製品化に向けたセルバンク構築を含む企業治験開始のための研究開発」について、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の支援を受けながら開発を進めてきました。研究開発を推進した結果、企業治験に使用する同種軟骨細胞シートを製造するための原料として、有効性と安全性を確認したマスターセルバンクを確立することができ、第22回日本再生医療学会総会においてこの成果を発表いたしました。

現在国内で第3相試験（検証的試験）を開始するため、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構（PMDA）との相談を経て、治験届提出に向けた準備を進めております。

また、事業提携活動につきましては、昨今の同種軟骨細胞シートへの関心の高まりを踏まえ、複数の提携先候補と契約締結に向けた活動を積極的に推進しており、同種軟骨細胞シートの価値最大化のため、秘密保持契約締結下で提携先候補企業と交渉を継続しております。

以上のような活動の結果、売上高は4,947千円（前年同四半期比523千円の増加）、営業損失は235,584千円（前年同四半期比27,710千円の増加）となりました。

## （2）財政状態の分析

### （資産）

当第2四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べて546,857千円増加し、1,778,795千円となりました。これは、現金及び預金が517,120千円増加したことなどによります。

当第2四半期会計期間末の固定資産は、前事業年度末に比べて45,735千円減少し、266,247千円となりました。これは、投資その他の資産が42,555千円減少したことなどによります。

この結果、当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて501,121千円増加し、2,045,042千円となりました。

### （負債）

当第2四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べて4,501千円減少し、176,193千円となりました。これは、1年内返済予定の長期借入金625千円減少したことなどによります。

当第2四半期会計期間末の固定負債は、前事業年度末に比べて1,557千円増加し、186,444千円となりました。これは、資産除去債務が45千円増加したことなどによります。

この結果、当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べて2,944千円減少し、362,638千円となりました。

### （純資産）

当第2四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べて504,066千円増加し、1,682,404千円となりました。これは、四半期純損失を363,958千円計上した一方で、新株予約権の行使による株式の発行により資本金及び資本剰余金がそれぞれ427,711千円増加したことなどによります。

## （3）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、前事業年度末に比べて517,120千円増加し1,589,331千円となりました。当第2四半期累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動に使用した資金は348,386千円（前年同四半期比78,994千円の支出増）となりました。これは、税引前四半期純損失363,483千円を計上したことなどによるものです。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において投資活動の結果獲得した資金は17,689千円（前年同四半期比32,621千円の獲得増）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出13,942千円があった一方、関係会社株式の売却による収入29,505千円などによるものです。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において財務活動の結果獲得した資金は847,817千円（前年同四半期比242,135千円の獲得増）となりました。これは、新株予約権の行使による株式の発行による収入850,191千円などによるものです。

## （4）研究開発活動

当第2四半期累計期間における当社が支出した研究開発費の総額は233,575千円であります。

なお、当第2四半期累計期間において当社の研究開発活動に重要な変更はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、当社が新たに締結を行った経営上の重要な契約は以下のとおりであります。

契約相手	契約書名	契約内容	契約期間
国立研究開発法人 国立 成育医療研究センター	細胞シート製造委託 契約書	先天性食道閉鎖症術後の小児を対象 とした再生治療の検討等における自 己由来口腔粘膜上皮細胞シートの製 造に関する業務の委託を定める契約	2023年5月8日から 2024年3月31日まで
国立研究開発法人 国立 成育医療研究センター	覚書	検体の採取・提供に関する契約書の 有効期間(2022年7月1日から2023 年6月30日まで)を1年間延長す る。	2022年7月1日から 2024年6月30日まで
パークレイズ・バンク・ ピーエルシー	第24回新株予約権 第三者割当契約証書	第24回新株予約権のパークレイズ・ バンク・ピーエルシーへの第三者割 当に関し、発行要項を含む諸条件を 定める契約	2023年6月5日から契 約解除まで

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,385,419	28,385,419	東京証券取引所 グロース市場	完全議決権株式であり権利 内容に何ら限定のない当社 における標準となる株式で あります。なお、単元株式 数は100株であります。
計	28,385,419	28,385,419	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2023年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

###### 第24回新株予約権

決議年月日	2023年5月15日
新株予約権の数(個)	69,000
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 6,900,000 (注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	344 (注)2,4,5
新株予約権の行使期間	自2023年6月6日 至2025年6月12日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 344.29 資本組入額 172.145 (注)3
新株予約権の行使の条件	割当先は、本新株予約権のうち15,000個については、同種軟骨細胞シート(CLS2901C)の治験届が独立行政法人医薬品医療機器総合機構に提出された旨が発行会社により公表された日以降にのみ行使することができる。 各本新株予約権の一部行使はできない。
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権は、当社取締役会の事前の承認がない限り、割当先の関連会社以外の第三者に対して譲渡することはできないものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

新株予約権の発行時(2023年6月5日)における内容を記載しております。

(注)1 本新株予約権は行使価額修正条項付新株予約権付社債券等であり、特質は以下のとおりであります。

- (1) 本新株予約権の目的である株式の種類及び総数は、当社普通株式6,900,000株とする。但し、下記第(2)号乃至第(5)号により交付株式数が調整される場合には、本新株予約権の目的である株式の総数は調整後交付株式数に応じて調整されるものとする。
- (2) 当社が当社普通株式の分割、無償割当て又は併合(以下「株式分割等」と総称する。)を行う場合には、交付株式数は次の算式により調整される。但し、調整の結果生じる1株未満の端数は切り捨てる。  
調整後交付株式数 = 調整前交付株式数 × 株式分割等の比率
- (3) 当社が下記「行使価額の調整」の規定に従って行使価額(以下に定義する。)の調整を行う場合(但し、株式分割等を原因とする場合を除く。)には、交付株式数は次の算式により調整される。但し、調整の結果生じる1株未満の端数は切り捨てる。なお、かかる算式における調整前行使価額及び調整後行使価額は、下記「行使価額の調整」に定める調整前行使価額及び調整後行使価額とする。

$$\text{調整後交付株式数} = \frac{\text{調整前交付株式数} \times \text{調整前行使価額}}{\text{調整後行使価額}}$$

- (4) 本項に基づく調整において、調整後交付株式数の適用開始日は、当該調整事由に係る下記「行使価額の調整」第(2)号、第(5)号及び第(6)号による行使価額の調整に関し、各号に定める調整後行使価額を適用する日と同日とする。
- (5) 交付株式数の調整を行うときは、当社は、調整後交付株式数の適用開始日の前日までに、本新株予約権に係る新株予約権者(以下「本新株予約権者」という。)に対し、かかる調整を行う旨並びにその事由、調整前交付株式数、調整後交付株式数及びその適用開始日その他必要な事項を書面で通知する。但し、下記「行使価額の調整」第(2)号に定める場合その他適用開始日の前日までに上記通知を行うことができない場合には、適用開始日以降速やかにこれを行う。
- (注) 2 本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
- (1) 各本新株予約権の行使に際して出資される財産は金銭とし、その価額は、行使価額に交付株式数を乗じた額とするが、計算の結果1円未満の端数を生ずる場合は、その端数を切り上げるものとする。
- (2) 本新株予約権の行使に際して出資される当社普通株式1株当たりの金銭の額(以下「行使価額」という。)は、当初、344円とする。但し、行使価額は、下記「行使価額の修正」又は「行使価額の調整」に従い修正又は調整される。

- (注) 3 本新株予約権の行使により株式を発行する場合の増加する資本金及び資本準備金  
本新株予約権の行使により株式を発行する場合の増加する資本金の額は、会社計算規則第17条の定めるところに従って算定された資本金等増加限度額に0.5を乗じた金額とし、計算の結果1円未満の端数を生じる場合はその端数を切り上げた額とする。増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より増加する資本金の額を減じた額とする。

- (注) 4 行使価額の修正  
2023年6月6日以降、行使価額は、本新株予約権の各行使請求の効力発生日(以下「修正日」という。)に、修正日の直前取引日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値(同日に終値がない場合には、その直前の終値)の96%に相当する金額に修正される。但し、かかる計算によると修正後の行使価額が下限行使価額を下回ることとなる場合には、下限行使価額を修正後の行使価額とする。下限行使価額は178円とし、下記「行使価額の調整」の規定を準用して調整される。

- (注) 5 行使価額の調整  
(1) 本新株予約権の発行後、下記第(2)号に掲げる各事由により当社の普通株式数に変更を生じる場合又は変更を生じる可能性がある場合には、次に定める算式(以下「行使価額調整式」という。)をもって行使価額を調整する。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{交付普通株式数} \times \text{1株当たりの払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{交付普通株式数}}$$



- (2) 行使価額調整式により行使価額の調整を行う場合及び調整後行使価額の適用時期については、次に定めるところによる。

時価（以下に定義する。）を下回る払込金額をもって当社普通株式を交付する場合（無償割当てによる場合を含む。）（但し、当社の発行した取得条項付株式、取得請求権付株式若しくは取得条項付新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）の取得と引換えに当社普通株式を交付する場合、当社普通株式の交付を請求できる新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）その他の権利の行使によって当社普通株式を交付する場合、又は会社分割、株式交換、株式交付若しくは合併により当社普通株式を交付する場合を除く。）

調整後行使価額は、払込期日（募集に際して払込期間を定めた場合はその最終日とする。以下同じ。）の翌日以降又は（無償割当ての場合は）効力発生日の翌日以降これを適用する。但し、株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合には、その日の翌日以降これを適用する。

当社普通株式の株式分割をする場合

調整後行使価額は、当社普通株式の株式分割のための基準日の翌日以降これを適用する。

時価を下回る払込金額をもって当社普通株式を交付する定めのある取得請求権付株式又は時価を下回る払込金額をもって当社普通株式の交付を請求できる新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）その他の権利を発行する場合（無償割当てによる場合を含むが、当社又はその関係会社（財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則第8条第8項に定める関係会社をいう。）の取締役その他の役員又は使用人に新株予約権を割り当てる場合を除く。）

調整後行使価額は、発行される取得請求権付株式の全部に係る取得請求権又は新株予約権その他の権利の全部が当初の条件で行使されたものとみなして行使価額調整式を適用して算出するものとし、払込期日（新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）の場合は割当日）の翌日以降又は（無償割当ての場合は）効力発生日の翌日以降これを適用する。但し、株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合には、その日の翌日以降これを適用する。

当社の発行した取得条項付株式又は取得条項付新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）の取得と引換えに時価を下回る価額をもって当社普通株式を交付する場合

調整後行使価額は、取得日の翌日以降これを適用する。

上記にかかわらず、当該取得条項付株式又は取得条項付新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）に関して、当該調整前に本号 による行使価額の調整が行われている場合には、調整後行使価額は、当該調整を考慮して算出するものとする。

本号 乃至 の場合において、基準日が設定され、且つ、効力の発生が当該基準日以降の株主総会、取締役会その他当社の機関の承認を条件としているときには、本号 乃至 にかかわらず、調整後行使価額は、当該承認があった日の翌日以降これを適用する。この場合において、当該基準日の翌日から当該承認があった日までに本新株予約権を行使した本新株予約権者に対しては、次の算出方法により、当社普通株式を交付する。

$$\text{株式数} = \frac{(\text{調整前行使価額} - \text{調整後行使価額}) \times \text{調整前行使価額により当該期間内に交付された株式数}}{\text{調整後行使価額}}$$

この場合、1株未満の端数を生じたときはこれを切り捨て、現金による調整は行わない。

- (3) 行使価額調整式により算出された調整後行使価額と調整前行使価額との差額が1円未満にとどまる場合は、行使価額の調整は行わない。但し、その後行使価額の調整を必要とする事由が発生し、行使価額を調整する場合には、行使価額調整式中の調整前行使価額に代えて調整前行使価額からこの差額を差し引いた額を使用する。
- (4) 行使価額調整式の計算については、1円未満の端数を切り上げる。  
行使価額調整式で使用する「時価」は、調整後行使価額が初めて適用される日（但し、本項第(2)号の場合は基準日）に先立つ45取引日目に始まる30取引日（終値のない日数を除く。）の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値の平均値とする。平均値の計算については、1円未満の端数を切り上げる。  
行使価額調整式で使用する既発行株式数は、株主に割当てを受ける権利を与えるための基準日がある場合はその日、また、かかる基準日がない場合は、調整後行使価額を初めて適用する日の1ヶ月前の日における当社の発行済普通株式の総数から、当該日において当社の保有する当社普通株式を控除した数とする。また、上記第(2)号 の場合には、行使価額調整式で使用する交付普通株式数は、基準日において当社が有する当社普通株式に割り当てられる当社の普通株式数を含まないものとする。
- (5) 上記第(2)号の行使価額の調整を必要とする場合以外にも、次に掲げる場合には、当社は、必要な行使価額の調整を行う。  
株式の併合、資本金の額の減少、会社分割、株式交換、株式交付又は合併のために行使価額の調整を必要とするとき。

その他当社の発行済普通株式数の変更又は変更の可能性が生じる事由等の発生により行使価額の調整を必要とするとき。

行使価額を調整すべき複数の事由が相接して発生し、一方の事由に基づく調整後行使価額の算出にあたり使用すべき時価につき、他方の事由による影響を考慮する必要があるとき。

- (6) 上記第(2)号の規定にかかわらず、上記第(2)号に基づく調整後行使価額を初めて適用する日が第10項に基づく行使価額の修正日と一致する場合には、当社は、必要な行使価額の調整及び下限行使価額の調整を行う。
- (7) 行使価額の調整を行うとき(下限行使価額が調整される時を含む。)は、当社は、調整後行使価額の適用開始日の前日までに、本新株予約権者に対し、かかる調整を行う旨並びにその事由、調整前行使価額、調整後行使価額(調整後の下限行使価額を含む。)及びその適用開始日その他必要な事項を書面で通知する。但し、上記第(2)号に定める場合その他適用開始日の前日までに上記通知を行うことができない場合には、適用開始日以降速やかにこれを行う。
- (注)6 当社が本新株予約権を取得することができる事由及び取得の条件
- (1) 当社は、本新株予約権の取得が必要と当社取締役会が決議した場合は、本新株予約権の払込期日の翌日以降、会社法第273条及び第274条の規定に従って通知をしたうえで、当社取締役会で定める取得日に、本新株予約権1個当たり払込金額と同額で、本新株予約権者(当社を除く。)の保有する本新株予約権の全部又は一部を取得することができる。一部取得をする場合には、抽選その他の合理的な方法により行うものとする。当社は、取得した本新株予約権を消却するものとする。
- (2) 当社は、当社が株式交換、株式交付又は株式移転により他の会社の完全子会社となることを当社の株主総会で承認決議した場合は、会社法第273条の規定に従って通知をしたうえで、当社取締役会で定める取得日(但し、当該株式交換又は株式移転の効力発生日よりも前の日とする。)に、本新株予約権1個当たり払込金額と同額で、本新株予約権者(当社を除く。)の保有する本新株予約権の全部を取得する。当社は、取得した本新株予約権を消却するものとする。
- (3) 当社は、東京証券取引所において当社の普通株式の上場廃止が決定された場合、上場廃止日又は上場廃止が決定した日から2週間後の日(証券保管振替機構の休業日等である場合には、その翌営業日とする。)のいずれか後に到来する日に、本新株予約権1個当たり払込金額と同額で、本新株予約権者(当社を除く。)の保有する本新株予約権の全部を取得する。当社は、取得した本新株予約権を消却するものとする。
- (4) 当社は、2025年6月12日に、本新株予約権1個当たり払込金額と同額で、本新株予約権者(当社を除く。)の保有する本新株予約権の全部を取得する。
- (注)7 割当先であるパークレイズ・バンク・ピーエルシーとの取り決め内容
- (1) 当社による行使停止
- 当社は、2023年6月6日以降2025年6月12日までの間において、割当先による本新株予約権の行使を希望しない場合は、割当先が本新株予約権の全部又は一部を行使することができない期間及び行使することができない本新株予約権の個数を記載した指示書を割当先に提出する方法その他両当事者が合意する方法により、本新株予約権の行使の停止を請求することができる。
- (2) 本新株予約権の譲渡
- 割当先は、割当先の関連会社(当該当事者の直接又は間接の子会社及び親会社(最上位の持株会社を含む。)並びにかかる親会社の直接又は間接の子会社をいう。)以外の者に対して、本新株予約権を譲渡する場合、当社取締役会の決議による承認を要する。また、割当先は、本新株予約権を他の者に譲渡する場合には、割当先の契約上の地位及びこれに基づく権利義務も共に当該譲受人に対し譲渡しなければならない。本項に基づく割当先の義務は、当該譲受人及び本新株予約権のその後のすべての譲受人に承継されるものとする。

( 3 ) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

当第2四半期会計期間において、行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る新株予約権が次のとおり行使されております。

第24回新株予約権

	第2四半期会計期間 (2023年4月1日から 2023年6月30日まで)
当該四半期会計期間に権利行使された当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の数(個)	7,250
当該四半期会計期間の権利行使に係る交付株式数(株)	725,000
当該四半期会計期間の権利行使に係る平均行使価額等(円)	300
当該四半期会計期間の権利行使に係る資金調達額(千円)	217,881
当該四半期会計期間の末日における権利行使された当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の数の累計(個)	7,250
当該四半期会計期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の交付株式数(株)	725,000
当該四半期会計期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の平均行使価額等(円)	300
当該四半期会計期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の資金調達額(千円)	217,881

( 4 ) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日(注1)	726,000	28,385,419	109,303	1,895,088	109,303	874,669

(注1) 第21回新株予約権(10個)及び第24回新株予約権(7,250個)の行使による増加であります。

( 5 ) 【大株主の状況】

2023年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
野村証券株式会社	東京都中央区日本橋1丁目13番1号	452,967	1.59
西村 彰	石川県金沢市	395,000	1.39
小野 一成	東京都杉並区	308,000	1.08
山本 大典	神奈川県横浜市保土ヶ谷区	200,000	0.70
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1丁目4番地	196,900	0.69
安井 勝孝	東京都千代田区	150,000	0.52
大日本印刷株式会社	東京都新宿区市谷加賀町1丁目1番1号	147,100	0.51
岡野 光夫	千葉県市川市	138,000	0.48
楽天証券株式会社	東京都港区南青山2丁目6番21号	135,700	0.47
矢野 鉦三	大阪府高槻市	120,000	0.42
計	-	2,243,667	7.90

(6) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 100	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,374,400	283,744	同上
単元未満株式	普通株式 10,919	-	同上
発行済株式総数	28,385,419	-	-
総株主の議決権	-	283,744	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己株式55株が含まれております。

【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
株式会社セルシード	東京都江東区青海二丁目5番10号	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

(注) 当社は、自己株式のうち、単元未満の自己株式を55株所有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第2四半期累計期間（2023年1月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期財務諸表について、けやき監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】  
(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,072,210	1,589,331
売掛金	25,775	23,172
商品及び製品	19,757	19,765
仕掛品	836	6,351
原材料及び貯蔵品	35,573	32,804
その他	77,783	107,369
流動資産合計	1,231,937	1,778,795
固定資産		
有形固定資産	98,334	95,154
投資その他の資産	213,648	171,092
固定資産合計	311,983	266,247
資産合計	1,543,920	2,045,042
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	394	6,069
1年内返済予定の長期借入金	7,500	6,875
賞与引当金	3,384	3,797
その他	169,416	159,451
流動負債合計	180,695	176,193
固定負債		
長期借入金	151,250	147,500
資産除去債務	33,637	33,682
その他	-	5,261
固定負債合計	184,887	186,444
負債合計	365,582	362,638
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,467,377	1,895,088
資本剰余金	446,957	874,669
利益剰余金	759,680	1,123,638
自己株式	227	227
株主資本合計	1,154,427	1,645,892
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	321	11,922
評価・換算差額等合計	321	11,922
新株予約権	24,232	24,589
純資産合計	1,178,338	1,682,404
負債純資産合計	1,543,920	2,045,042

(2) 【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
売上高	74,612	66,966
売上原価	38,570	28,546
売上総利益	36,041	38,419
販売費及び一般管理費		
研究開発費	1 200,501	1 233,575
その他	2 184,384	2 164,059
販売費及び一般管理費合計	384,886	397,635
営業損失( )	348,844	359,215
営業外収益		
受取利息	5	5
為替差益	1,986	1,279
その他	197	114
営業外収益合計	2,189	1,399
営業外費用		
支払利息	418	388
新株発行費	5,705	8,476
営業外費用合計	6,124	8,864
経常損失( )	352,779	366,680
特別利益		
新株予約権戻入益	-	609
関係会社株式売却益	-	15,759
特別利益合計	-	16,369
特別損失		
減損損失	2,445	13,172
特別損失合計	2,445	13,172
税引前四半期純損失( )	355,225	363,483
法人税、住民税及び事業税	1,900	475
法人税等合計	1,900	475
四半期純損失( )	357,125	363,958



## (3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失( )	355,225	363,483
減価償却費	3,932	3,995
減損損失	2,445	13,172
受取利息	5	5
支払利息	418	388
株式報酬費用	798	-
新株発行費	5,705	8,476
新株予約権戻入益	-	609
関係会社株式売却損益( は益)	-	15,759
売上債権の増減額( は増加)	2,113	2,603
棚卸資産の増減額( は増加)	20,689	2,753
その他の流動資産の増減額( は増加)	49,394	9,013
仕入債務の増減額( は減少)	5,320	5,675
未払金の増減額( は減少)	42,814	22,203
前受金の増減額( は減少)	30,772	39,013
賞与引当金の増減額( は減少)	509	413
その他の流動負債の増減額( は減少)	53,225	8,629
小計	265,117	347,054
利息の受取額	4	4
利息の支払額	480	388
法人税等の支払額	3,798	948
営業活動によるキャッシュ・フロー	269,391	348,386
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	14,931	13,942
関係会社の整理による収入	-	2,127
関係会社株式の売却による収入	-	29,505
投資活動によるキャッシュ・フロー	14,931	17,689
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	-	4,375
新株予約権の行使による株式の発行による収入	604,538	850,191
新株予約権の発行による収入	1,144	2,001
財務活動によるキャッシュ・フロー	605,682	847,817
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	321,358	517,120
現金及び現金同等物の期首残高	846,674	1,072,210
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,168,032	1,589,331

## 【注記事項】

( 継続企業の前提に関する事項 )

該当事項はありません。

( 四半期貸借対照表関係 )

当座貸越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約を締結しております。

当第 2 四半期会計期間末における当座貸越契約に係る借入金未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 ( 2022年12月31日 )	当第 2 四半期会計期間 ( 2023年 6月30日 )
当座貸越極度額	100,000千円	100,000千円
借入実行残高	- 千円	- 千円
差引額	100,000千円	100,000千円

( 四半期損益計算書関係 )

1 研究開発費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第 2 四半期累計期間 ( 自 2022年 1月 1日 至 2022年 6月30日 )	当第 2 四半期累計期間 ( 自 2023年 1月 1日 至 2023年 6月30日 )
研究開発費		
給与手当	53,421千円	43,648千円
賞与	7,565千円	8,396千円
賞与引当金繰入額	1,826千円	1,950千円
消耗品費	17,329千円	17,002千円
補助金収入	- 千円	51,999千円
業務委託費	33,016千円	115,209千円

2 その他の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第 2 四半期累計期間 ( 自 2022年 1月 1日 至 2022年 6月30日 )	当第 2 四半期累計期間 ( 自 2023年 1月 1日 至 2023年 6月30日 )
役員報酬	20,772千円	15,172千円
給与手当	50,269千円	36,291千円
賞与	10,153千円	9,572千円
賞与引当金繰入額	2,150千円	1,846千円
支払報酬	12,834千円	11,517千円
特許関連費	8,890千円	6,501千円

( 四半期キャッシュ・フロー計算書関係 )

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第 2 四半期累計期間 ( 自 2022年 1月 1日 至 2022年 6月30日 )	当第 2 四半期累計期間 ( 自 2023年 1月 1日 至 2023年 6月30日 )
現金及び預金	1,168,032千円	1,589,331千円
現金及び現金同等物	1,168,032千円	1,589,331千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

当社は、新株予約権の行使に伴う新株の発行により、当第2四半期累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ305,632千円増加しております。

また、当社は、2022年3月25日開催の定時株主総会の決議により、2022年5月3日付で資本金3,528,238千円、資本準備金1,770,454千円をそれぞれ減少しその他資本剰余金に振替え、振替後のその他資本剰余金5,298,692千円の全額を繰越利益剰余金に振替えることにより欠損填補に充当しました。

以上の結果、当第2四半期会計期間末における資本金は1,326,051千円、資本剰余金は305,632千円となっております。

当第2四半期累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

当社は、新株予約権の行使に伴う新株の発行により、当第2四半期累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ427,711千円増加しております。

以上の結果、当第2四半期会計期間末における資本金は1,895,088千円、資本剰余金は874,669千円となっております。

(持分法損益等)

当社が有している関連会社は、利益基準等からみて重要性が乏しい関連会社であるため、記載を省略しております。なお、当社は当該関連会社株式の一部を譲渡したことにより、当第2四半期会計期間末時点において当社が保有する関連会社株式はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	再生医療支援 事業	細胞シート 再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	70,188	4,424	74,612	-	74,612
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	70,188	4,424	74,612	-	74,612
セグメント損失( )	40,545	207,874	248,419	100,424	348,844

(注)1 セグメント損失( )の調整額 100,424千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に経営企画部門に係る費用であります。

2 セグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期累計期間においては、2,445千円であります。

当第2四半期累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	再生医療支援 事業	細胞シート 再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	62,018	4,947	66,966	-	66,966
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	62,018	4,947	66,966	-	66,966
セグメント損失( )	27,663	235,584	263,248	95,966	359,215

(注)1 セグメント損失( )の調整額 95,966千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に経営企画部門に係る費用であります。

2 セグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期累計期間においては、13,172千円であります。

(収益認識関係)

当社の顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

前第2四半期累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)

(単位:千円)

セグメント	一時点で 移転される財	一定の期間にわたり 移転される財	合計
再生医療支援事業	70,188	-	70,188
細胞シート再生医療事業	4,341	83	4,424
合計	74,529	83	74,612

当第2四半期累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

(単位:千円)

セグメント	一時点で 移転される財	一定の期間にわたり 移転される財	合計
再生医療支援事業	62,018	-	62,018
細胞シート再生医療事業	4,530	416	4,947
合計	66,549	416	66,966

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
1株当たり四半期純損失( )	18円54銭	13円29銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失( )(千円)	357,125	363,958
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失( )(千円)	357,125	363,958
普通株式の期中平均株式数(千株)	19,266	27,380
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	第14回 850個 第15回 80個 第17回 390個 第20回 1,200個 第21回 831個	第20回 -個

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月9日

株式会社 セルシード  
取締役会 御中

けやき監査法人  
東京都港区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 吉村 潤一

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 宮下 圭二

**監査人の結論**

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社セルシードの2023年1月1日から2023年12月31日までの第23期事業年度の第2四半期会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第2四半期累計期間（2023年1月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社セルシードの2023年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

**監査人の結論の根拠**

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

**四半期財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。